

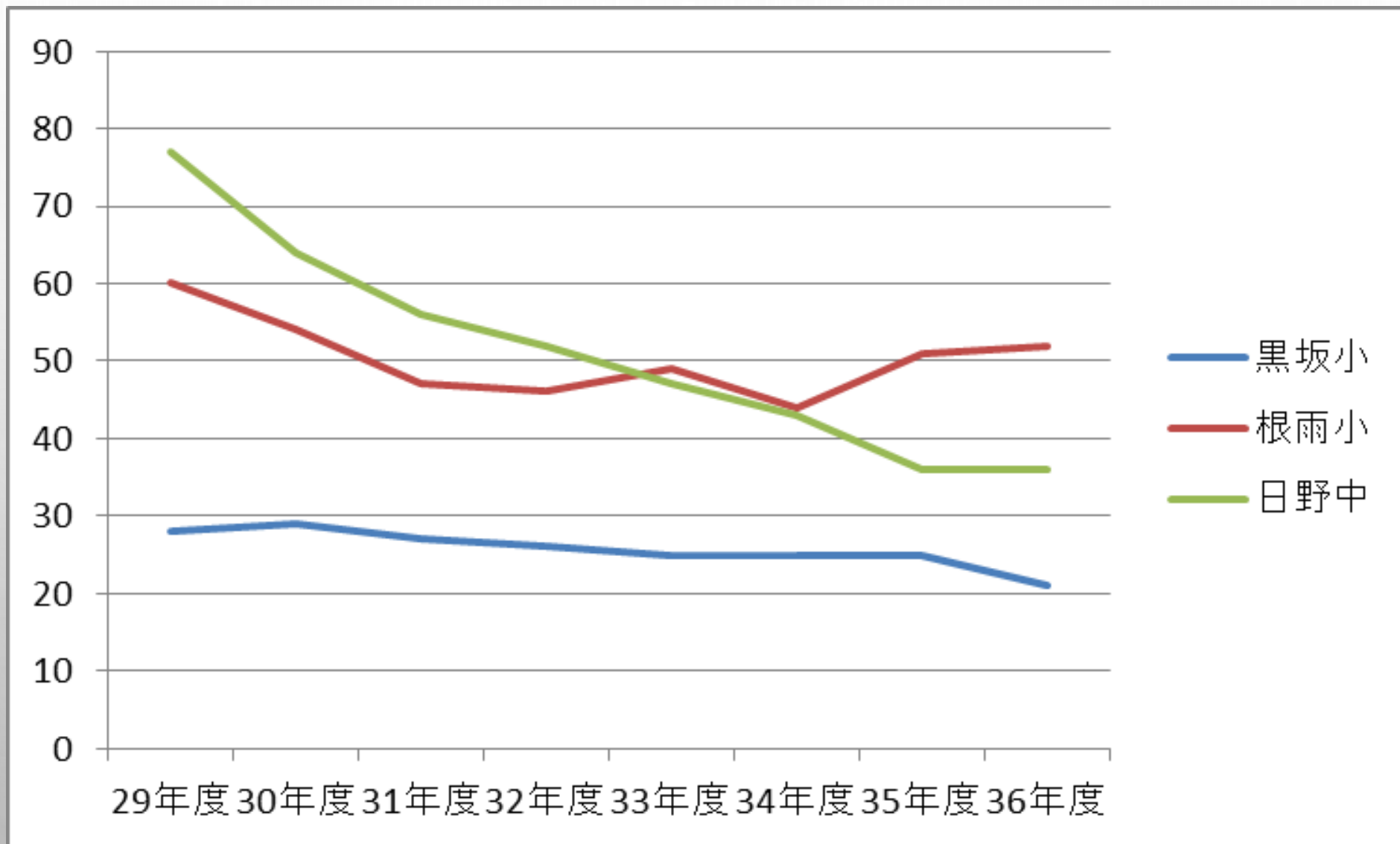
The background features several realistic water droplets of various sizes scattered across a light gray gradient. The droplets have highlights and shadows, giving them a three-dimensional appearance.

すべては子どもたちとまちの将来のために
～日野町におけるコミュニティ・スクール導入の取組～

日野町の概要

- 昭和34年根雨町と黒坂町とが合併して誕生 来年(2019年)町制60周年
- 面積 133.98km²
- 人口 3,159人 1,366世帯 高齢化率(65歳以上)47.1%
- 内閣府による人口推計 → 1,861人(2040年) → 1,092人(2060年)
- 保育所 日野町立ひのっこ保育所
- 小・中学校 日野町立黒坂小学校 日野町立根雨小学校 日野町立日野中学校
- 高校 鳥取県立日野高等学校

日野町の児童・生徒数の推移



日野町の教育

第2次日野町教育大綱

○社会全体での学習環境整備

保護者や地域住民の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」の推進により、町民が一体となって、子どもや地域が抱える課題を解決するしくみづくりを進めるとともに、地域コミュニティの活性化を図る。

日野町教育振興基本計画〔第Ⅱ期〕

(1)社会全体で取り組む教育の推進

保護者や地域住民の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」を推進し、地域社会全体で子どもたちを育むとともに、地域コミュニティの活性化を図ります。

- ・コミュニティ・スクールの指定

CS導入の背景／導入にあたっての考え方

《子どもたち及び学校をとりまく環境》

- 豊かな自然、貴重な歴史、文化遺産
- 子育て、教育に協力的な地域社会
- 少子高齢化、生活の多様化、高度情報化社会の進展等に伴う生活環境の変化
- 就学児童生徒数の減少、人口減少に伴う集落機能の衰退
- 家庭の教育力の低下
- 国内外における事件、犯罪の多発

《子どもたち及び学校の現状と課題》

- 児童生徒数の減少による学級の小規模化、複式化の進行
- 固定された関係の中での生徒指導上の課題
- 学力の二極化
- 特別な支援を要する子どもの増加

CS導入の背景／導入にあたっての考え方

《教育大綱の具現化》

- 町民が一体となって、子どもや地域が抱える課題を解決するしくみづくり
- 地域コミュニティの活性化

《社会に開かれた教育課程》

- 学校教育を通じた地域社会づくりと目標の共有化
- 社会や世界と向き合い、人生を切り拓く資質・能力の育成
- 地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律(地教行法)の改正》

- 第47条の6 第1項
 - ・教育委員会は・・・学校運営協議会を置くように努めなければならない。
(設置の努力義務化)
 - ・ただし・・・二以上の学校について一の学校運営協議会を置くことができる。
(複数校で一つの協議会設置が可能)

CS導入の背景／導入にあたっての考え方

《ふるさとを担う子どもたちの育成》

- 「自他を大切にできる心」「日野町に誇りを持ち、日野町を愛する心」「主体的に考え、行動し、他者と協働して解決する力」「高度情報化社会、グローバル化する社会を主体的に生きる力」の育成
- 将来の日野町を担っていく人材の育成（日野町が好き⇒日野町を創る）

《子どもたちが地域を活性化》

- 自己有用感の高まり
- 住民同士のつながり

《持続可能なしくみが必要》

- 人口減少と高齢化
- 教職員の異動
- 教育委員会の関わり

CS導入の背景／導入にあたっての考え方

《必要感がもたれるしくみに》

- 教職員、保護者、地域住民への理解促進
 - ・CS推進委員会の設置とCSディレクターの配置
 - ・CSを導入する理由、期待する効果等を丁寧に説明
 - ・学校や地域から「負担感」を持たれないように
 - ・熟議体験等の研修会や広報紙をとおして「必要感」を
 - ・町議会議員への説明

《既存組織との関連》

- 学校評議員、学校関係者評価委員の役割も学校運営協議会で
- CSディレクター、地域コーディネーターの配置
- 地域学校協働本部(学校支援地域本部)との連携

《委員の選任がポイント》

- みんなが初心者、導入後の研修で意識の高揚を
- 委員の任期

学校支援地域本部の取組

【設置】

- 平成23年6月1日

【地域コーディネーター】

- 平成24年度～平成27年度 地域コーディネーター 1名配置
- 平成29年度～平成30年度 CSディレクター(1名)が兼務

【学校支援ボランティア登録者数】

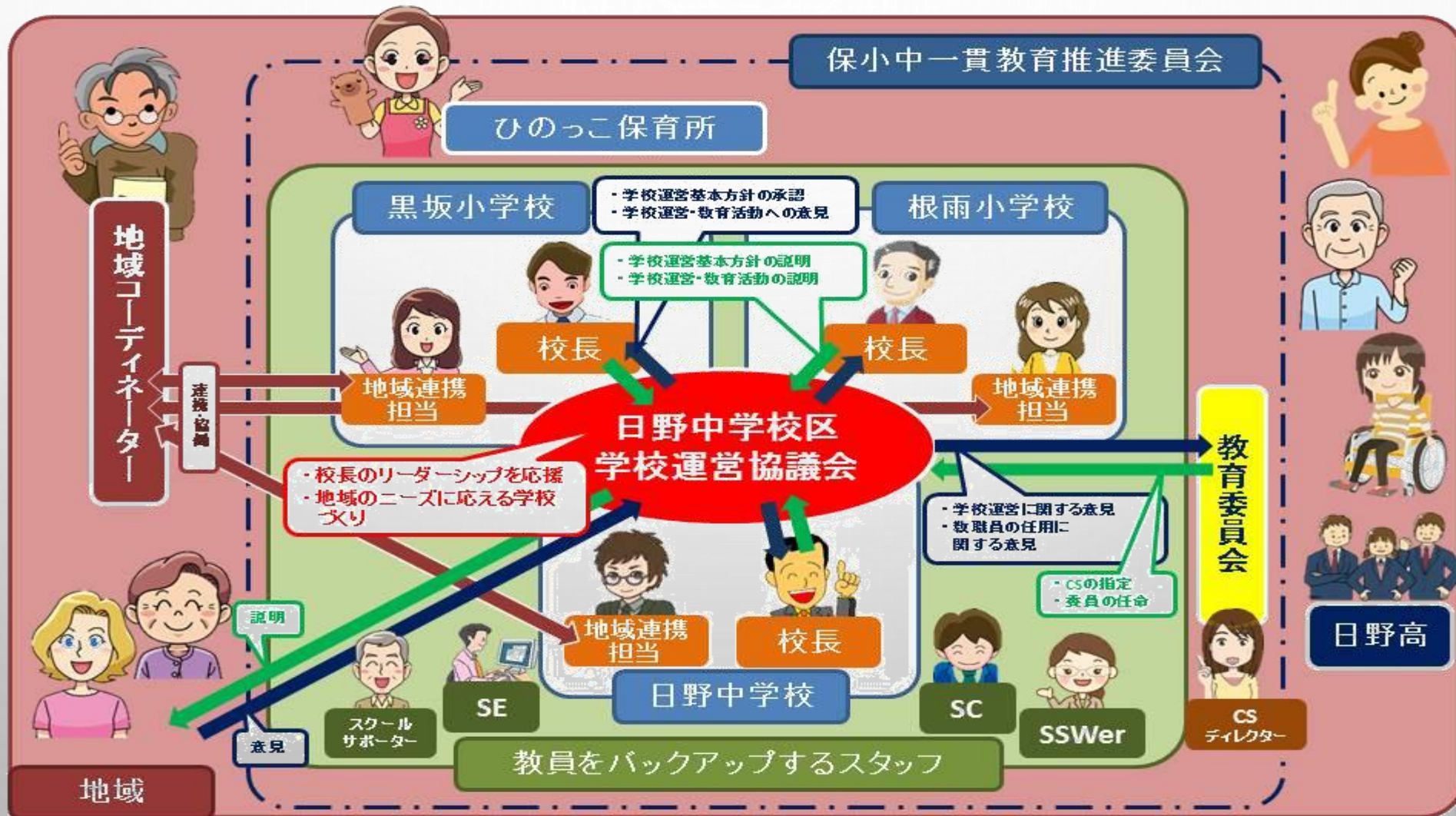
- 44名(平成30年10月19日現在)

【今までの活動例】

- 環境整備、部活動支援、学習支援、学校行事支援、安全パトロール 等

日野中学校区CSのイメージ

コミュニティ・スクールを核とした日野町学校教育のイメージ
— よりよい社会をつくるという目標のもと教育課程を介して地域社会とつながる学校 —



CS導入に向けた取組 ～CS推進委員会の開催

【委員】

- 有識者(2名)、学校長(3名)、小・中学校保護者(3名)、地域代表(2名) 計10名

【平成29年度】

- 開催回数 5回
- 協議内容 研究計画、意識調査、研修会、広報紙、学校運営協議会委員の構成 等

【平成30年度】

- 開催回数 5回(予定) 11/8時点では、3回開催
- 協議内容 研究2年次の計画、研修会、学校運営協議会組織、委員の選定 等

CS導入に向けた取組 ～CS研修会・説明会の開催

【研修会講師】

梶原敏明 先生（CSマイスター、大分大学COC+推進機構 統括コーディネーター）

【平成29年度】

- ・ 開催回数 3回・・・推進委員対象、教職員対象、保護者・地域住民対象
- ・ 内容 講演 《コミュニティ・スクールとは》

【平成30年度】

- ・ 開催回数 5回（予定）・・・教職員・学校評議員・学校関係者評価委員対象、PTA対象（3回）、
地域住民対象
- ・ 内容 講義・熟議体験 《日野町の未来を担う子どもたちを学校と地域とで育てるために》

○説明会 3回 各学校のPTA総会時にCSについて説明

CS導入に向けた取組 ～CS研修会・説明会の開催

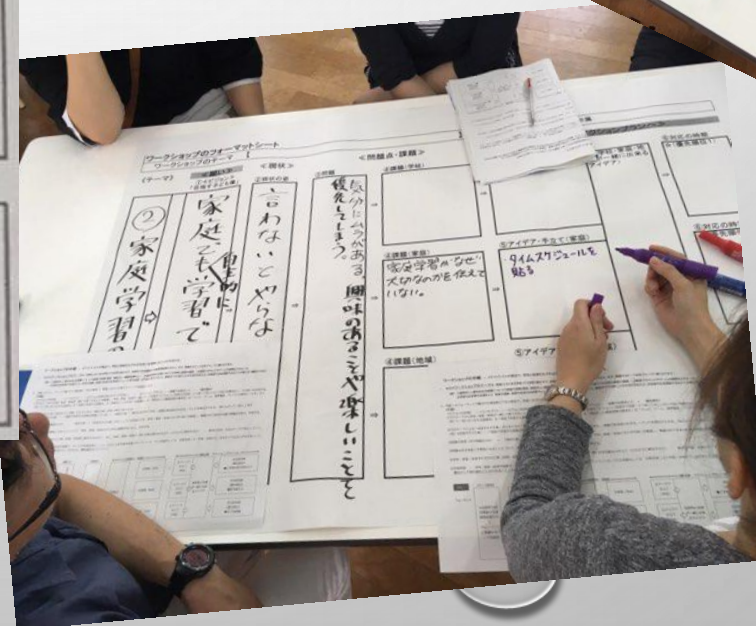


熟議体験

CS導入に向けた取組 ～CS研修会・説明会の開催

ワークショップのテーマ

①課題	②現状	③問題点・課題	④解決策・アクションプラン
①課題 「目標とする子ども像」 ②現状の姿	②現状の姿 ③問題 復元したい姿がある。興味のあることや楽しんでいること	④課題(学校) 担任の先生による宿題自主・家庭学習の結果	⑤アイデア・手立て(学校) 宿題について統一したルールを決める ⑥対応の時期 ★(優先順位1) 学年懇談会 家庭学習について話し合う ⑦対応の時期 ★(優先順位2) かまぼこ100問の活用 ⑧対応の時期 ★(優先順位3) 親子で双方向のコミュニケーション ⑨対応の時期 ★(優先順位4) タイムスケジュールを貼る 家庭学習の大切さを学校で話し合う 宿題 結果と一緒にやる
①課題 「目標とする子ども像」 ②現状の姿	②現状の姿 ③問題 復元したい姿がある。興味のあることや楽しんでいること	④課題(家庭) 家庭学習の大切さを伝えることができていない	⑤アイデア・手立て(家庭) タイムスケジュールを貼る 家庭学習の大切さを学校で話し合う 宿題 結果と一緒にやる
①課題 「目標とする子ども像」 ②現状の姿	②現状の姿 ③問題 復元したい姿がある。興味のあることや楽しんでいること	④課題(地域)	⑤アイデア・手立て(地域)



フォーマットシートを活用して熟議

CS導入に向けた取組 ～CS情報の全戸配布

日野中学校区 コミュニティ・スクール情報

第5号(平成30年1月)
日野町教育委員会

コミュニティ・スクール研修会開催

平成29年12月1日(金)に、日野町山村開発センターで、コミュニティ・スクール研修会を開催しました。午後7時30分からの開催でしたが、保育所、各学校の保護者の皆様、各団体の委員の皆様を中心に、49人の参加がありました。

〈内訳〉

保護者(保育所、小・中学校)	17人
保護委員・社会教育委員・青少年育成委員	13人
教育委員・学校関係者評価委員	11人
民生児童委員・主任児童委員	9人
上記以外の町民の皆様	3人
教職員	5人
町外からの参加者	2人

※委員を兼務されている場合がありますので、合計数は参加者数と一致しません。

研修会では、文部科学省初等中等教育局コミュニティ・スクール推進委員の梶原敬明先生に、「コミュニティ・スクールとは～地域とともにある学校づくり～学校と地域はオシドリのように」と題して、講演をいただきました。講演の冒頭に、地域住民と中学生とが一緒になって地域づくりについて協議している大分県内の中学校での映像が紹介されました。そこには、中学生が地域住民から学び、また、地域住民が中学生と関わることによって生き生きと活動している姿がありました。講演の中では、

- ・今後の予測不可能な時代を生き抜く力を子どもたちに培っていかなくては
- ・その力を培うには地域や家庭がもっている教育力が必要であり、地域と連携を展開することが望まれる。

そのためのツール(仕掛け)として、コミュニティ・スクールは有効で子どもたちを育てていくために参画す

参加者アンケートより

研修会の後、参加いただいた皆様にアンケートに
とおります。(回収率 70.2%)

コミュニティ・スクール研修会(291201)参



《感想・意見》

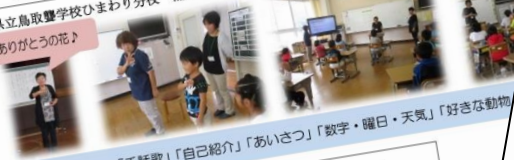
- 日野町は、地域へ出かけての学習や保護者が参加する会がわりとあり、協力的と思う。これら先も同じが
変わってきている。
- まず、おとなが地域の魅力を子どもに伝え、行事等への参加をすすめていかなければいけないと思う。
- 地域の子どもの育成、町の発展に向けて、コミュニティ・スクール導入を進めていただきたい。期待しています。
- コミュニティ・スクールの重要性が、以前より理解できた。
- 学校のためのコミュニティ・スクールでなく、地域のためのコミュニティ・スクールだと思った。それが、子どものためになるだろうと思
っている。まだ理解が不十分なことが多いが、いろいろな意見と交換できる場があることはよいと思う。少子化で子どもの人数が
減っていくので、地域のおとなや資源が関わっていくことで、いろいろな関わり、活動の場となり、デメリットもメリットになると思
います。

アンケート結果を見ると、「地域住民が学校に関わることで、学校の教育が充実すると思う。」「学
校をよくすることが、地域をよくすることにつながると思う。」と感じておられる方が、非常に多
くいらっしゃいます。また、「機会があれば、学校の活動に積極的に関わろうと思っている。」と思
ってくださっている方も多く、とても心強く思いました。
地域の学校であるという意識のもとで、地域の皆様と学校とが同じ目標をもって、子ども
を育てていけるよう、ご理解とご支援、ご協力をお願いします。

学校支援ボランティアの皆様などにお世話になった活動 ～9・10月～

ふれあいの秋

手話学習：一黒坂小・全校 (9月19日)
県立鳥取聖学校ひまわり分校 浦木コーディネーター ～「聴覚障がいのある人・ない人」～
ありがとうの花



「手話歌」「自己紹介」「あいさつ」「数字・曜日・天気」「好きな動物」

敬老参観日一黒坂小 (9月22日)・根雨小 (9月30日) 一
お菓子づくり「あんバター」



年々、上手になって
います!

祖父母、保護者そしてボランティア講師のみなさんと

グラウンドゴルフ

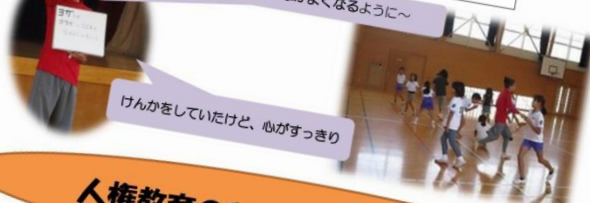


竹でっぼう

お手



みんな一緒に『元気ヨガ体操』を楽しもう一黒坂小3・4年 (9月25日)
『ヨガ』は、体と心がなよくなるように～



けんかをしていたけど、心がすっきり

人権教育の秋～つながる保小中高～

小小交流「車いすバスケット」
一黒坂小・根雨小5・6年 (10月23日)



講師：福永幸男さん
(車いすバスケット協会理事長)

えっ!コーンがあって
自動車を入れられない!

高校生との交流「車いす体験」
一黒坂小4年 (10月20日)



ティップオフ

車いすの人の気持ちが
分かった!

人権教育参観日：「盲導犬リズムとともに」～田淵ひとみさん～ 一黒坂小5年 (10月24日)
☆☆うれしいことは、盲導犬と一緒に皆さんに出会えることです!☆☆

視覚障がいのある
人が『白杖』を
あけていると
きは、困ってい
るときです!

SOS

4つの気
元気 勇気 やる気 感謝の気

日野中学校区学校運営協議会のしくみ

H30まで

黒坂小学校学校評議員会

根雨小学校学校評議員会

日野中学校学校評議員会

校長の求めに応じ意見を述べるができる

黒坂小学校学校関係者評価委員会

根雨小学校学校関係者評価委員会

日野中学校学校関係者評価委員会

学校評価の外部評価を行う

H31以降

日野中学校区学校運営協議会

- ◎学校運営の基本方針を承認する。
- ◎学校運営について意見を述べる。
- ◎教職員の任用に関して、教委規則で定める事項について、意見を述べる。
- めざす子ども像の共有と、その実現に向けた取組について協議する。
- 学校運営や必要な支援について協議する。
- 学校評価の外部評価を行い、改善に向けた提言等を行う。

委員：地域代表（5～7名）

※地域学校協働活動推進員、ひのっこ保育所保育士、日野高教員を含む

保護者代表（3名）、学校代表（3名）

会議：年4回（年度当初及び各学期末）＋臨時会（随時）

事務局：CSディレクター、事務主幹（共同実施）

教育委員会

任命



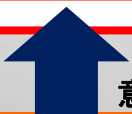
意見



情報提供



意見

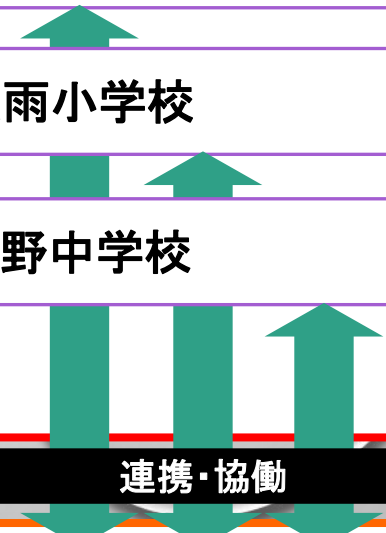


黒坂小学校

根雨小学校

日野中学校

連携・協働



保護者・
地域住民等

地域学校協働本部

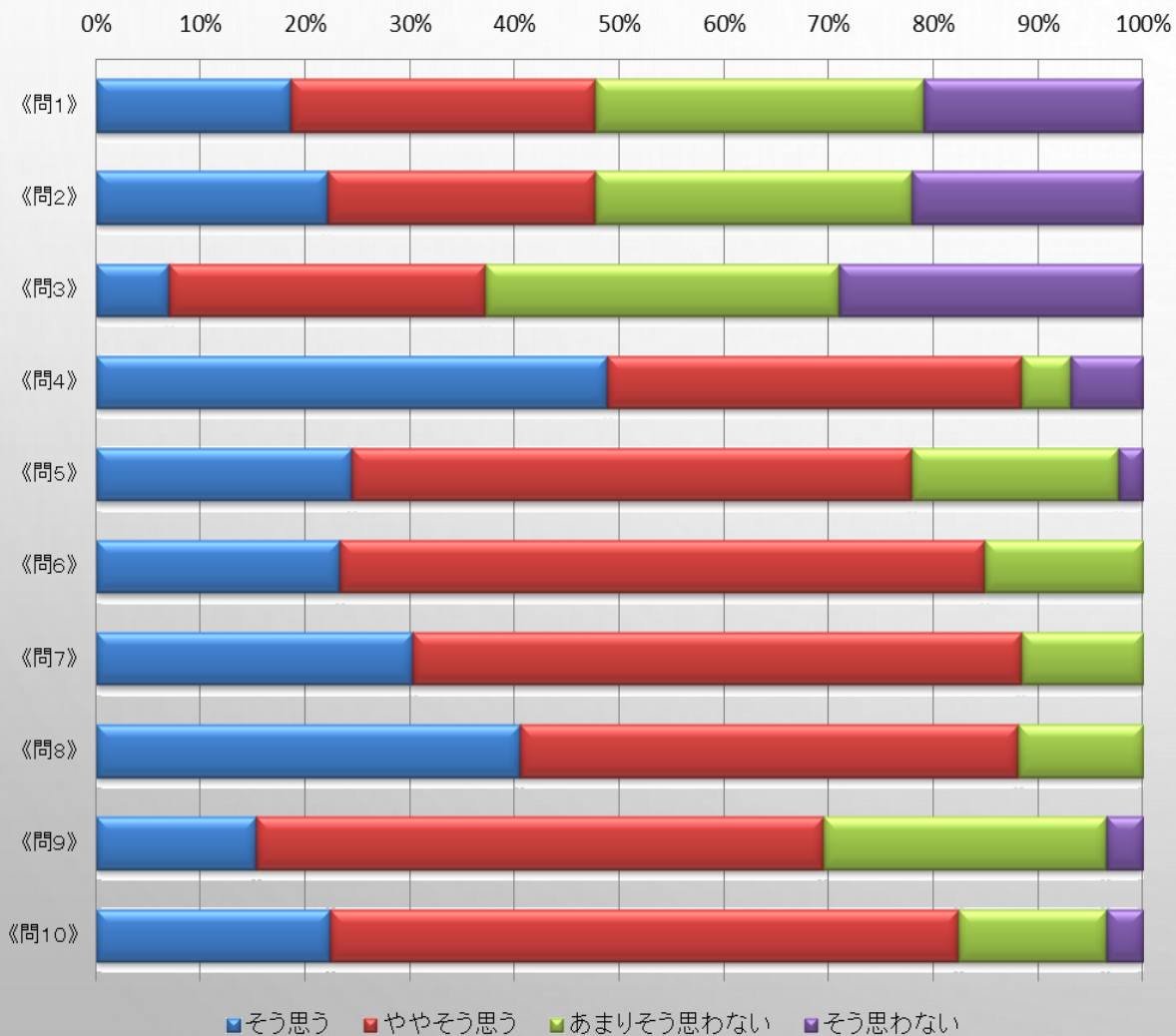
[地域学校協働活動推進員を配置し、学校と地域との連絡・調整、ボランティアの確保、活動の計画を行う]

今後の取り組み

- 平成30年12月末まで
学校運営協議会委員の選出
- 平成31年2月中
学校運営協議会(仮)会議の開催
 - ・平成31年度の学校運営の基本方針等の承認(暫定)
- 平成31年3月末まで
関係条例、規則等の制定、改正等
- 平成31年4月1日
日野中学校区学校運営協議会の設置に関する規則 施行
 - ・日野中学校区学校運営協議会設置
 - ※日野中学校区にコミュニティ・スクールを導入
- 平成31年5月中旬まで
平成31年度第1回学校運営協議会
 - ・平成31年度の学校運営の基本方針等の承認

成果と課題

保護者アンケート集計結果 (CS)



設問

- 《問1》 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」について、以前から知っている。
- 《問2》 教育委員会が発行(全戸配布)している「コミュニティ・スクール情報」を読んだことがある。
- 《問3》 研修会や「コミュニティ・スクール情報」等により、「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」のことが理解できた。
- 《問4》 学校の活動等を、たよりやホームページ等で知っている。
- 《問5》 学校は、地域の人材を活用した授業等に積極的に取り組んでいると思う。
- 《問6》 機会があれば、学校の活動に積極的に関わろうと思っている。
- 《問7》 地域の住民が学校に関わることで、学校の教育が充実すると思う。
- 《問8》 学校をよくすることが、地域をよくすることにつながると思う。
- 《問9》 学校は、地域の住民の意見を積極的に取り入れていると思う。
- 《問10》 学校は、地域の活動に協力している。

成果と課題

- CSのしくみ等について、教職員、保護者に知ってもらうことができた。
- 地域住民の中にも、CSについて関心を持ってくださる人が出てきた。
- 平成31年4月1日導入に向け、取組を進めることができている。

- 保護者、地域住民への理解促進
- 学校運営協議会委員の意識向上
- CSディレクター、地域学校協働活動推進員の配置
- 教職員の意識の向上
- 教育活動の充実

おわりに

○すべては子どもたちとまちの将来のために

- ・子どもたちの将来のために何ができるか、まちの将来のために何ができるか、学校、保護者、地域の3者が、当事者意識をもって関わる。

○子ども、学校、地域がWIN－WINの関係で

- ・子ども…地域の人と関わることで、コミュニケーション力やキャリア意識等が高まる。また、安心して地域で暮らすことができる。
- ・学 校…地域人材を生かし、深まりのある活動が展開できる。また、役割を分担することで、多忙感の解消につながる。
- ・地 域…これまでの経験や学びをいかすことができ、生きがいがうまれる。

○日野高校との連携

- ・保育所から高校まで、町内にあるという環境をいかす。